# 【注意喚起のお知らせ】

# 在宅酸素吸入では、“火気に注意を”

肺の病気などのため自宅で酸素供給装置を使用して高濃度の酸素吸入をしている患者さんが、喫煙や漏電が原因とみられる火災事故で、昨年1月から11月末時点までで7人死亡したと、厚生労働省より発表されました。
こうした火災死亡事故は、この11年間で50人に上ります。
酸素吸入中の喫煙は絶対にやめましょう！
暖房器具の取扱いにも十分気を付けましょう！

～～～

一般社団法人日本産業・医療ガス協会
在宅酸素部会

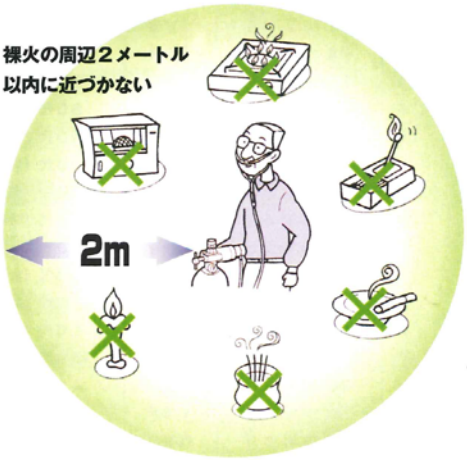
火気厳禁　　禁煙

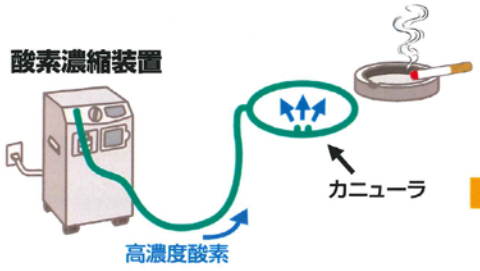
# 在宅酸素療法での火気との距離制限

1. 酸素濃縮装置、酸素ボンベ、液化酸素容器からは …… **2 m 以上**

2. 液化酸素を設置型装置（親容器）から携帯型装置（子容器）に移充填するときは …… **5 m 以上**

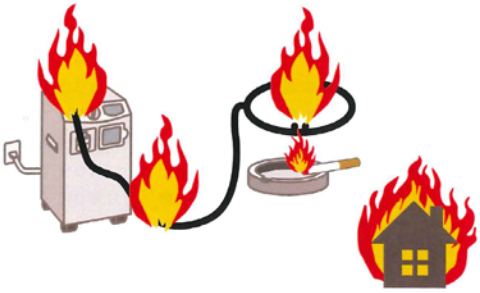
3. 吸入用のカニューラ、携帯型の酸素ボンベや液化酸素装置及び延長チューブ、吸入中の患者自身も火気の直近に近寄ってはならない




一度消えたはずの火が、再度点火することもあります。

**タバコなどの火が近付いた場合**



一度火がつけば、すごい勢いで火が燃え移ります！

出典：（独）医薬品医療機器総合機構 医療安全情報 No4 2008年6月

※ 火気の取扱いに注意し、取扱説明書どおりに正しく使用すれば、酸素が原因でチューブや衣服等が燃えたり、火災になることはありません。